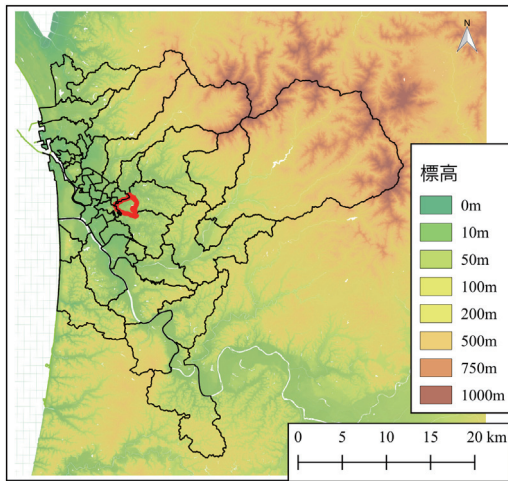


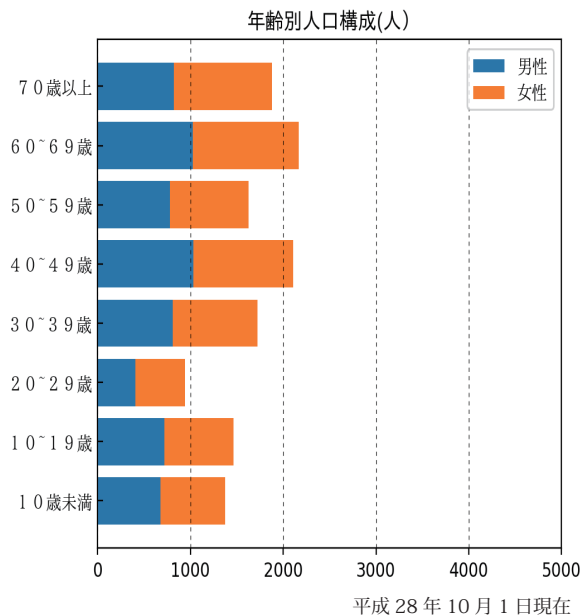
25：桜小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	13,267 人
世帯数	5,447 世帯
65 歳以上人口	3,059 人
10 歳未満人口	1,372 人



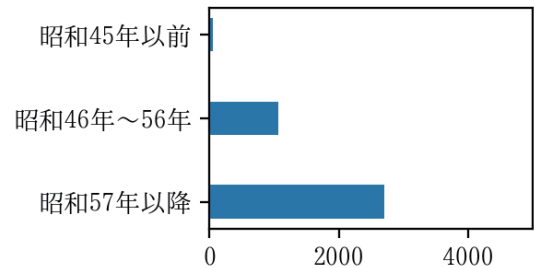
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	3826
非木造建物	495

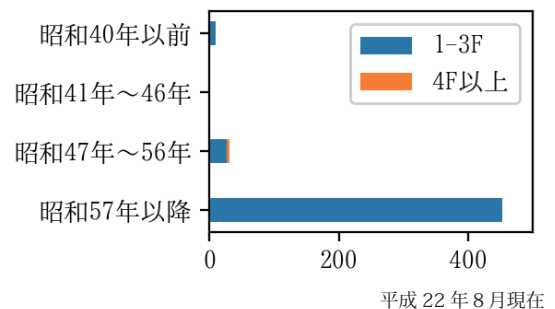
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	2,712
昭和46年～56年	1,069
昭和45年以前	45



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	454	0
昭和47年～56年	27	4
昭和41年～46年	0	0
昭和40年以前	10	0



自然的・社会的基本指標

秋田市街地東側の低丘陵地を開発した団地を中心とした小学校区であり、その北縁を太平川が流れる。低地部の一部では1983年日本海中部地震の際に、地盤の液状化が発生した。丘陵地端部に急傾斜等の危険域が分布する。全世代の構成比率が概ね均衡している人口構成となっているが、20歳代人口がやや少ない。65歳以上の高齢者層は、全体の23%である。建物は宅地開発の影響もあり、木造建築物は昭和46年以降の建物が大半である。非木造建物では、昭和57年以降の建物が大半である。昭和57年以降の建築物が全体の73%を占める。

3 自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 洪水

指定河川	太平川	雄物川	
浸水面積 (%)	0.7	0.6	
最大浸水深 (m)	ランク 2	ランク 1	

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	4	宮ヶ沢、細谷沢、下北手桜 他
土石流危険渓流	3	太田沢、横森沢、登館沢
地すべり危険箇所	2	横森、桜
なだれ危険箇所	1	桜 3 丁目

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	2	下北手桜、宮ヶ沢 2 号
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9）

平均震度	震度 6 弱	
（計測震度）	（5.78）	
震度 6 強以上となる面積（%）	20	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率（%）	3.8	

* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が運動した場合）

浸水面積（%）	（該当なし）	
最大浸水深（m）	（該当なし）	

4 災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 要支援者関連施設（収容施設のみ）

種別	施設数
高齢者支援	6
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	4

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	1
こども園	1
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	5

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 消防関連施設

消火栓数（箇所）	110
防火水槽（箇所）	13
消防車台数（台）	6
消防ポンプ数（台）	6
消防団員数（人）	64

■ 避難所／避難場所（別表参照）

災害種別	施設数
洪水	10
土砂災害	10
地震	10
津波	0
福祉避難所	2
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称／箇所数
管轄消防署	城東消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院・医院数（歯科を除く）	5
最寄りの救急告示病院	中通総合病院
自主防災組織数	34

自然災害時の危険要素

太平川と宝川の合流地点付近の右岸では、太平川の氾濫により一部浸水が発生することが想定されている。雄物川の氾濫では、学校区南部の農用地の一部に浸水が及ぶと想定されている。

土砂災害の危険区域は丘陵地に分布し、そのうち警戒区域等として 2 箇所（急傾斜）が指定されている。

地震動については太平川に向かって徐々に揺れやすくなる傾向がある。低地部において液状化が発生する危険性が高い。津波による浸水は想定されていない。

防災上の課題と対策

1983 年日本海中部地震では、学校区の一部で液状化が発生しており、今後の大地震でも液状化が発生する可能性がある。

桜小学校区は、近年の開発造成による住宅地であり、建物の大半は新耐震建築物で、木造建物および低層の非木造建物からなっている。人口は、桜台および太平台などの住宅地での増加が著しい。人口構成は特に偏りなく各年代がほぼ同数となっている。相対的に若年～中年層が多いことから地域の防災対応力に期待できる。

指定避難所は、北部（桜地区）に集中し、かつ収容力からみて避難者すべてを屋内に収容しきれないおそれがある。全体に建物の密集度が比較的高く、火災が発生した場合に

は延焼する危険もある。新興の住宅地であることから、防災に関する知識や防災関連情報の周知・徹底にぐわえ、地域住民が住民同士の協力関係の構築、地域意識の醸成に努め、日常から適切な防災活動ができるよう支援していくことが有効である。町内会等を単位とし、住民自ら減災および避難行動が可能となるよう自発的な地区防災計画を検討

することが望まれる。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ / 土石流	地震	津波	大規模火災	
桜地区コミュニティ センター（多目的ホール）	○	○	○	○	x	x	117 人
桜中学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	6,395 人
桜中学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	560 人
桜小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	3,560 人
桜小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	320 人
横森地域運動広場	x	○	○	○	x	x	4,170 人
桜台中央公園	x	○	○	○	x	x	3,000 人
桜ガ丘第二街区公園	x	○	○	○	x	x	2,195 人
大平台もみの木公園	x	○	○	○	x	x	3,220 人
一つ森公園コミュニティ 体育館	○	○	○	○	x	x	896 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
ケアハウスファミリー園	桜一丁目 4-21	018-887-3066
ファミリー園 デイサービスセンター	桜一丁目 4-21	018-887-3066

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
（該当なし）			

津波警報サイレン

施設	所在地
（該当なし）	

